・　私の年間目標に関して、事前にいろんな方向から考えてMTGに臨んで頂き、たくさんの気付きを頂き、ありがとうございました。

　長期目線の目標を決める時に意見を貰うことは、陽子さんが年単位の目標設定グループを立ち上げてくれた2年前からやっていたことでした。
　その頃は一緒に活動していたメンバーからも遠慮がちに問われていたと思う。
　それは私の目標が、私の日々格闘していることが、遠い世界のように取り扱われているようで寂しい思いも感じていた。
　今のチームItoメンバーは（もちろん、まだ遠慮している部分もあるのだろうけれど）私の目標や現状について、それぞれ解釈して、私に気付きのための問いを投げかけてくれている。
（今、ふと、私も同じように二人に感じている（まだ残っている）遠慮感が、距離感に通じているのだろうかと思った。）

　前半、一人のメンバーが「周りの力を借りる（＝人に心を開く）」という点について、いくつも問いを重ねて、私に気付きを与えようとしてくれた。
　問いの意図が上手く取れなかったのは、途中で答えた通り、チームIto（陽子さん含む）に対して、明らかに秘密にしていること（踏み込まれたくないこと）はもうないと思っていたからだ。
　膠着状態になっていた時に、もう一人のメンバーが割って入ってくれたことは、これまでの習慣から外れた、勇気が要ったことだったと思う。

だけどそのことをきっかけに、陽子さんの言葉も合わせて、えみさんが言いたかったことがスッと入ってきた。

会話の質を考えたら、チームItoメンバーの中では、他では語り合わない内容のことを話している。
それでもなお距離を感じさせるとしたら、会話の進め方として、証拠を押さえてからステップを進める私の思考と話し方が、時に私の意図の通じなさや親しみの無さにつながっているのだと思った。
これは合宿の対面セッションで、もっと近く感じる話し方の練習につなげたいと思う。

年間目標そのものに関して、具体的な日程を問いかけられた時に、私にもまだまだ空白にしたままの2024年があるなと思った。
私が感じている自然科学への親しみが、まだまだチーム**Ito**の中でも浸透していないのだと思った。
2023年思いがけず始まった広報活動も合わせて、10プロの中でも、もっと聞く耳を持っていないはずの外野に対しても、私はもっともっと声を上げて、分かりやすい表現を選んで、そして10プロの外でも通じるような研究の実績を身に付けて、もっと耳を傾けてもらえるように伝え続けていかなければいけないのだと思った。
（A.S 40代女性 北海道）